千葉実験所

Chiba Experiment Station

http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/chiba/

東京大学生産技術研究所の附属施設で、面積9．3haを有し、駒場II地区では実験困難な研究および大規模な装置や広い土地を必要とする研究が行われている。　　千葉市稲毛区弥生町１－８（最寄駅　JR西千葉）

概要

昭和37年4月、六本木キャンパス（平成13年3月まで使用）に移転するに際し、旧キャンパス（千葉市稲毛区弥生町）に存置されたもので、昭和42年まで千葉実験場と呼ばれていた。

当初は試験溶鉱炉が設置されていたが、津波高潮実験棟、水工学実験棟、大型振動台、レーザーおよびミリ波実験設備等が順次設置されていき、さらに構造物動的破壊試験設備、高電圧実験設備、地震による構造物破壊機構解析設備、風路付造波回流水槽および工学系研究科に所属する船舶航海性能試験水槽等が設置された。また不織布を用いた補強試験盛土擁壁実物大試験体、雨水浸透施設現地模型等が作られている。

平成7年1月には、鉄筋コンクリート2階建て延床面積3,823㎡の研究実験棟が新営され、実験所の研究基盤整備の画期となった。

平成14年4月には、水工学実験棟の建て替え施設として、長さ50m、幅10m、深さ5mの水槽を有し、波、流れ、風による人工海面生成機能を備えた東京大学生産技術研究所海洋工学水槽棟が設置された。これらの施設や設備の中には、複数の研究室で共用されているものも多い。

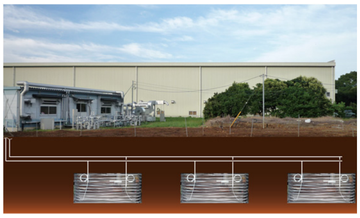
最近では持続可能なバイオマス利活用システムの設計、モデルドーム、地中熱利用空調システム実験設備、試験用信号機、LRT試験設備、省エネ型都市交通システム「エコライド」、次世代石炭ガス化炉試験装置、柱表層品質検証用RCラーメン模擬高架橋などの新たな実験的研究が展開されるなど、いっそうの教育・研究および産学の活動を推進している。

実験所の研究施設や設備の利用については、千葉実験所管理運営委員会が毎年各教員から提出される使用計画を審議し承認する仕組となっている。ここ数年、約30名の教員が60件前後のテーマを掲げて研究を展開しており、研究テーマも着実に更新されている。

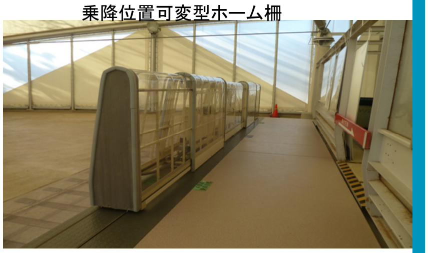
鳥瞰図

柱表層品質検証用RCラーメン模擬高架橋

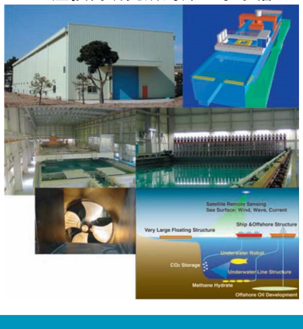
地中熱利用空間システム実験施設



乗降位置可変型ホーム柵



次世代石炭ガス化炉試験装置

張力型空間構造モデルドーム／ホワイトライノ

生産技術研究所海洋工学水槽